



都市史学会  
Society of Urban & Territorial History



Title The Custom House from City Quay, Dublin by Samuel Frederick Brocas

都市史学会主催 ワークショップ

# ジョージアン・ダブリンの都市空間

—— 建築史的観点から ——

2017年12月25日 月 13:30-18:00 東京大学工学部一号館 (3F・建築学専攻会議室 315号室)

ジョージI～IV世期(18世紀初めから19世紀初め)のダブリンは、ヨーロッパ最大規模の街路、ヨーロッパで最も壮麗とうたわれた建築物、ブリテン帝国で最も美しいとたたえられた公園がつけられるなど、ヨーロッパを代表する華やかな都市へと成長した。

これまで日本の建築史/都市史/西洋史研究においてダブリンが対象とされることはほぼ皆無であった。本ワークショップは、建築および都市空間に注目して全盛期ダブリンの姿を描き出すことにより、その豊かな個性と魅力を伝えたい。さらにダブリンをイングランド、スコットランドの諸都市と比較することで、ブリテン諸島の都市史研究に新しい地平を開くことも試みたい。

司会=坂下史(東京女子大学)

13:30-14:00

発題 ジョージアン・ダブリンを見る視角 | 東京大学大学院工学系研究科建築学専攻伊藤研究室 (伊藤毅・小南弘季・岩田会津・海老原利加・杉山結子)

14:00-15:45

報告Ⅰ ジョージアン・ダブリンのマクロ的予備考察 | 勝田俊輔(東京大学)

報告Ⅱ 富とチャリティと病院

—— ジョージアン・ダブリンの建築物と都市開発 | 大石和欣(東京大学)

報告Ⅲ ジョージアン建築の一起源

—— 18世紀のエディンバラおよびダブリンにおける

建築的取り組みに表れた社会的課題 | 近藤存志(フェリス女学院大学)

15:45-16:35

コメントⅠ ダブリンの風景を読む | 桑島秀樹(広島大学)

コメントⅡ ジョージアン都市の歴史を比較すると | 近藤和彦(立正大学)

16:35-18:00

討論

参加=事前申込不要。会員以外の方もご参加いただけます。

アクセス=東京メトロ南北線「東大前」駅より徒歩6分、東京メトロ丸の内線・都営大江戸線「本郷三丁目」駅より徒歩12分、東京メトロ千代田線「根津」駅より徒歩12分、同「湯島」駅より徒歩20分。

